



千八百七十八年五月七日刊行
シヤパンガゼット、ニ掲載セルシヤパンタイムス社説、譯

條約改正附日本國貨、說第二



3932



474
A 935



條約改正附日本國債ノ説第二

堀口昇 譯

大正十一年四月
大隈侯爵郵券贈

我輩ハ先月中日本銀田債ノ事ニ係ハル社説二篇ヲ綴リ墨西哥
「ドルラ」ラ題シテ其日本國ニ於テ占ムヘキ至當ノ階位タル地
金ノ地位ニ下ラシメンコトヲ説ケリ

又日本政府ニ自國ノ貨幣法ヲ其曰ニ復シ銀ヲ以テ本位トナシ
前キニ大坂造幣寮ノ長タリシ「マジヨルキン」ドル氏ノ發意ニ由
テ元來鑄造セル貨幣ニシテ其量其性合墨西哥「ドルラ」ト同等
均一ナル正當ノ日本銀田債貿易銀ニ區テムヲ復シテ公私諸般ノ取
引工ニ於テ受授スヘキ合法貨幣トナサンコトヲ忠告セリ

又日本政府ニ其發行紙幣ヲシテ諸般ノ内國稅及ニ物産稅ノ上
納ニ用ユヘキ合法貨幣トナサンコトヲ忠告シテ紙幣ノ權理ヲ保
持セリ

然レモ又日本政府ニ可及的早キ年月ニ於テ人民ノ要求ニ隨ヒ
銀貨ヲ以テ其紙幣ヲ引換エヘキ所存ナルトテ公告レテ紙幣ノ
根拠ヲ固メ正金ニ對スル其價格比例ニ於テ昇降騰下ノ患ヲ防
備スルハ家モ得策ナルトテ薦賛セリ
前キニ我輩ノ論レ殘シタル事項ハ墨西哥「ドル」ト日本円貨
トノ間ノ競争ニ於テ外國政府及ヒ銀行者及ヒ高買ヲシテ日本
円貨ニ其援ヲササレメント欲セハ果シテ彼等ハ日本政府ニ向
テ如何ク保証ヲ要求スルヤラ陳述スルニアリ
又其競争カ日本円貨ノ勝利ヲ以テ其局ヲ結ノニ當リテ此ヨリ
生スル利益如何シラ日本政府ニ表示スルニアルナリ
我輩側カニ聞ク日本政府ハ金本位ヲ設立セントテ試ミタルノ
非ナルヲ悟リ稍々其改過ノ念ヲ生シ再ヒ銀本位ニ立戻ラン
ヲ欲スト

然レモ日本政府ハ其円貨ノ量ヲシテ四百二十「グレ」エシナラシ
メントノ所存ナリト若シ果シテ日本政府カ此所存ヲ回執シテ
己マサレハ是其人民ノ血統ヲ証スヘキ又一箇ノ証拠ヲ顯ハス
モノト云ハサルヲ得ス
我輩ハ先キニ日本人民ハ他邦ニ卓越シテ其國勢ヲ振フノ基本
タル確乎不拔ノ氣象ニ乏ク其性質水ノ如ク動揺シテ更ニ耐忍
カナキヲ以テ瞭然「リ」ユベシ「最」モ性質ノ輕薄ナルモノナリ
ノ血統ナルトテ言エリキ
然ルニ今日本政府カ其所存ヲ強ユテ実行セハイスレト「國」王
「レ」ホブ「オ」ムニ反シテ脱族セル十箇人種ノ一ナル「イ」サ「チ」ヤ「ル」ス「イ」
「レ」ノ「困」苦ヲ免レサルモノナリ「神」モ亦タ日本人民ノ祖先タルトテ
求ム可シ
果シテ此風評ノ如ク日本政府ヲ貿易銀ヲ以テ墨西哥「ドル」ラ

ト競争ヲ試ミシテ固執シテ己マサシハ日本人民ハ西箇ノ重
荷ヲ脊負テ躡踏セル様壯ナル駱馬ニ比喩スル「イマチアル」ノ苗
裔タル「」ヲ証明スルモノト云ハサルヲ得ス

何トナレハ日本政府カ量目四百二十「グレ」エシノ銀田ヲ以テ墨
西哥「ドル」ラシト競争スル時ハ其左肩ニ「亜米利加」貿易「ドル」
ヲ負ヘ右肩ニ「墨西哥」ドルラシラテ擔ヘハナリ

日本國大藏卿カ如何シテ此ノ如キ過誤ニ陥リタルヤラ看破
スルハ敢テ難キニ非ルナリ

蓋シ日本大藏卿ノ左右ニ「亜米利加」貿易「ドル」ラシラテ偏愛スル外
國人ナシト妄想是寛ナリスルモ猶小其門下ニ出入スル日本人
ニシテ曾テ「亜米利加」ニ渡航シテ「亜米利加」國ノ教育ヲ受ケ「亜米
利加」國ノ總テ過テル貿易及「財政」ニ繫ハル論理ニ薰陶シテ本
朝ニ帰帆セルモノアリテ之ヲ輔積スル「明」ラカナリ是即「日

本大藏卿カ量目四百二十「グレ」エシニシテ「亜米利加」貿易「ドル」
ラシト同一ナル銀田ヲ鑄造セント欲スル所以ナリ

然レモ日本改訂家輩ハ宜シク日本國ト「亜米利加」トハ其間ニ大
小貧富ノ差異アリ後ニ「亜米利加」國タル隣人ノ鞋靴ヲ履イテ歩
行セント欲セハ「蹶躓」轉倒シテ後ニ他人ノ笑柄タルヲ知ラサル
可ラス

「亜米利加」貿易「ドル」ラシハ特リ「亜米利加」人ニ對シテ其功用ヲ為
スモノナリ

蓋シ「亜米利加」ノ賣銀者ハ其地銀ヲ棒形ヲ以テ輸出スルヨリハ
貿易「ドル」ラシノ形状ニ鑄造シテ之ヲ輸出スルヲ以テ却テ益
アリトスルナリ
抑モ「亜米利加」賣銀者ノ目的トスル所ハ字内ノ地銀求需ニ過延
セル其銀礦ノ産出銀ヲ如何シテカ賣リ拂フニ在リ

故ニ亜米利加人ハ銀ヲ以テ支那國ヨリ茶及ヒ絹等ヲ買フベカ
ラサル量目四百二十「グレエン」ノ小塊ニ鑄造シ支那國ヨリ茶ヲ
リ絹ナリ隨意ニ賣取スルヲ得ヘキ量目四百十七「グレエン」ノ
墨西哥「ドル」ト交換スルモ敢テ損失ヲ蒙ルヲチキナリ
何ントナレハ亜米利加人ハ銀鑛ヲ掘出シテ之ヲ鑄解分析シ而
シテ後テ之ヲ貿易「ドル」ト称スル小銀塊ニ鑄造シテ外國ニ
輸出スルハ多クノ手数ヲ経ルモノ、如シト雖モ其入費ヲ亜米
利加銀鑛ヨリ生スル巨大ノ銀額ニ平均スル時ハ至テ些少ノ工銀
ヲ費ヤス事業ナリ

故ニ亜米利加人ク其極印ヲ打テタル小銀塊ヲ廣ク世上ニ通用
スル墨西哥「ドル」ト交換スルニ於テ銀ノ二三「グレエン」ヲ放
棄スルモ敢テ後腹ノ痛メル取引ニ非レハナリ
然レモ日本國ハ亜米利加銀鑛ノ如キ其産出ノ巨額ナル銀山ヲ

有スレニ非ス故ニ其國産タル絹、茶、米、或ハ金ヲ賣却シテ銀棒ヲ
買取レ之ヲ日本人ク好シテ貿易銀ト称スル量目四百二十「グレ
エン」ノ小銀塊ニ鑄造シテ其費用ヲ拂ヒ而シテ後テ之ヲ権勢強
盛ナル墨西哥「ドル」ト交換シ剩ヘ増歩ヲ以テ交換スルハ日
本國ニ於テハ決シテ利益アル事業ニ非ルナリ
日本政府ハ若シ量目四百二十「グレエン」ノ銀四錢ヲ鑄造セハ其
品量墨西哥「ドル」ニ優ル所アルヲ以テ能ク墨西哥「ドル」
ヲ流通ノ區域外ニ驅逐スルヲ得ヘシト信スル乎
凡ソ同名位ノ貨幣ニシテ甲ハ品量優等ナリ乙ハ品量下等ナル
ニ当テ品量下等ナル乙貨ク品量優等ナル甲貨ノ為メニ其流通
ノ區域ヲ放逐サレタルトハ我輩未ダ曾テ聞知セサル所ナリ故
ニ將來ト望ニ亦タ此ノ如クナラサルヘカラス
品量優等ノ貨幣ハ決シテ天下ニ流通スルノ機會ヲ得サルナリ

品量下等ノ貨幣ハ優等ノ貨幣カ鑄造シラル、ニ隨テ之ヲ買尽
シテ之ヲ鑄解盡ニ送致スルモノナリ
我輩ハ日本政府カ此等ノ真理ニシテ万古ノ確言タルヲ知ラ
ントヲ希望ス
我輩ハ茲ニ此確言ノ適証ヲ一々枚舉スルニ違ナレ故ニ特ニ之
ヲ陳述スルノミ請フ之ヲ自省セヨ
日本因債カ競争セントスル所ノモノハ乃チ墨西哥「ドル」ナ
リ亞米利加賣銀者ノ小銀塊即チ貿易「ドル」ニハ非ルナリ
日本政府ハ墨西哥「ドル」ヲ以テ亞米利加貿易「ドル」ヲ買
フカ如ク其因債ヲ以テ亞米利加貿易「ドル」ヲ買フヲ得バ
銀棒ヲ買ハスレテ宜レク平均相場ク或ハ打少ヲ出スニ論ナク
手術ヲ尽クレテ亞米利加貿易「ドル」ヲ買フベシ
亞米利加貿易「ドル」ヲ以テ日本因債ヲ鑄造スルハ銀棒ヲ以テ

之レヲ鑄造スルニ勝レリ然レモ日本政府カ其因債ヲ以テ支那
國貿易ノ媒介タル貨幣ノ供給ニ於テ墨西哥「ドル」ト競争ヲ
試ミント欲セム密ニ均レキ兵器ヲ以テ戦ハサルヘカラス即チ
同一ノ貨幣ヲ以テ競争セサル可ラス
蓋レ日本政府カ此競争ニ於テ勝利ヲ得ルノ機密ハ特ニ同一ノ
貨幣ヲ以テ戦フニアルナリ
何トナレハ善惡貨幣ノ競争ニ於テハ品量優等ノ貨幣カ常ニ敗
北ヲ取ルハ實ニ理外ノ觀想ナリト雖モ是實ニ疑フ容レサル實
事ナレハナリ
我輩ハ今日日本政府カ其因債ヲ以テ久レク世上ニ慣用サレタル
墨西哥「ドル」ヲ排擠スルニ際シテ外國政府及チ銀行者及チ
高買ノ應援ヲ藉ラント欲セハ日本政府ハ彼等ニ對シテ如何シ
ノ保証ヲ立テサルベカラサルヤノ問題ヲ論セント欲ス

日本政府ハ外國政府及、銀行者及、商賈等ノ應援ヲ藉ルニ非
レハ其目的タル墨西哥ドルヲ排擠ノ事業ヲ成就シ能ハサル
トヲ已ニ諒知スルトハ我輩モ亦之ヲ知レリ

又日本政府ハ英國人タル我輩ノ論スル所ヲ以テ後來ニ空リテ
又變革ヲ要スルノ不幸ニ墜落シ非常ノ不便ヲ蒙ルモモ願ニス
又豫メ之ヲ防崇スヘキ十全不欠永久繼續ノ保証ヲモ備ヘス後
ニ日本現時ノ債幣法ヲ紊亂シテ墨西哥國ニ換フルニ日本國ヲ
以テ支那貿易ノ媒介タル債幣ヲ鑄造スヘキ造幣寮トナシ全然
貿易ノ大勢ヲ變移セント欲スルノ旨意ニ出テタルモノニ非ル
トヲ了知スルハ我輩モ亦之ヲ知ル

凡ソ各外國新聞社ハ日本政府並ニ人民ノ利益ヲ計ラサルベカ
ラス故ニ我カ「タイムズ」新聞社モ亦日本政府ニ恩惠ノ扶助ヲ与
ヘ日本國ノ財源ヲ發達スルニ於テ日本人民ノ助カヲ爲スニ汲

々々タラサルヲ得ス

何トナレハ日本政府ノ堅固不動ト日本人民ノ繁榮富有ハ両ツ
ナカラ是外國貿易ノ旺盛ニ對シテ欠クヘカラサルモノナレハ
ナリ

然リト雖モ我輩ハ日本政府或ハ人民ノ過失瑕瑾ヲ瞑目シテ見
サルヲ得ス而シテ又之ヲ故ラニ知ラサル俾レテ政府或ハ人民
ニ嫵媚諂佞スル目的ヲ有セサルナリ

日本政府モ亦々人民モ未タ信憑ヲ置キテ特ニ事ヲ爲サレム可
キ程充分ニ東洋ノ陋習ヲ睥睨セサルナリ

世變リ星移リテ日本國ノ政爭家々詐偽ノ成功ヲナシタルモノ
ハ交際ノ本義ニ背ケルトヲ詳知シ而シテ其高賈モ亦信用ハ即
チ通商ノ命脈タルトヲ悉知スルニ至ラサル間ハ外國政府ハ日
本政府ニ向テ保證ヲ要セサルベカラズ外國高賈モ亦々日本高

大義
公言

買ニ向ワテ一種ノ取引約定貨幣ヲ要スサルヲ得ス

今ヤ東洋貿易ノ業已ニ旺盛ニシテ尚ホ日ニ月ニ駭々然トシテ繁昌ノ祥域ニ至ラントス故ニ之ニ関スル利害得失ハ特ニ日本國而已ニ非ラス西國人タル我輩ノ利益モ亦之ニ関スル極メテ大ナリ

故ニ此旺盛ナル貿易ノ媒介タルヘキ貨幣ヲ鑄造スルノ任ヲ日本政府ニ附托スルカ如キ大關係ノ事件ヲ所置スルニ於テハ日本政府ノ既往ノ錯誤現在ノ究情将来ノ迷惑等ハ豈詳細ニ憂慮戒心セサルベカラス

千八百六十六年ヨリ千八百七十年ニ至ルノ間日本政府ノ通貨ニ係ハル欺詐ヲ如何ンソ忘失スルトヲ得ンヤ

日本官吏ノ陋習或ハ日本人民性来ノ惡質ヨリ後來將々ニ起ル可レト憂虞スヘキ前兆アル事件ニ於テハ豈之カ豫防ノ策ヲク

シテ可ナランヤ

我輩案スルニ凡テ我輩ノ憂虞ヲ霧消レテ能ク我輩ノ私ニ希望スル所ノ條件ヲ悉皆調整スヘキ万全ノ行路ハ只一ノミ

其行路タルヤ真ニ一ナリト云ハ能ク我輩ノ希望ヲ満足スルモノニシテ實ニ十全ノ保証ト云フヘキナリ何ソヤ曰ク日本造幣寮ヲ以テ其事務ヲ擔當スルニ耐ユヘキ外國ノ管轄ニ附托スル

一是ナリ

日本政府カ其造幣寮ヲ以テ外國ノ管轄ニ屬スルハ是日本國民ニ於テ大ナル耻辱トスルモノアラン
然レモ斯ノ如キ管轄ヲシテ能ク行ハレシメハ日本國ノ面目ヲ毀傷スルトナリ却テ日本國ニ對スル海外ノ信用ヲ増シ隨テ貿易ノ繁榮進歩ヲ生レ加フルニ其餘波ハ延及シテ日本大藏省ニ巨大ノ利益ヲ未スヘキヲ証明スヘキ確然タル輓近ノ逸例ハ

實ニ屈指ニ暇アラサルナリ
前キニ英佛ノ支那國ト戦争ノ局ヲ結フヤ將サニ支那國ヨリ二
國ニ向テ拂フヘキ償金ノ支拂ヲ過タラシメン為メニ英佛ハ支
那國政府ニ要求スルニ其税関監督ノ權ヲ渡ヤントラ以テセリ
斯ノ如クニシテ其償金ハ速クニ支辨セラレタリキ然レモ支那
國政府ハ税関ノ監督ヲ以テ外國人ニ屬托スルノ法ヲ永遠ニ繼
續セハ大ニ自國ニ利益アルトテ發見シテ之ヲ外人ニ屬托マリ
是ニ於テ予貿易ハ日々其繁榮ヲ増シ方今ニ至リテハ其税関ハ
貴重ノ低当トナリ之ヲ以テ外國負債ヲ興ヤント欲セハ容易ク
安利ヲ以テ之ヲ假借スルトテ得ヘシ
現今支那國ニ於テハ内國税ハ微小ニシテ殆ント政府ノ經費ニ
充ルニ足ラス政府ハ既ニ動搖シテ將サニ轉倒セントスルニ能
ク其貨幣ノ支給ヲ為シ敢テ欠乏ノ患歎ナクシムルモノハ持

ニ税関入額ノ供給ニ因ルナリ

「エジプト」ノ例モ亦リ速クニ思ヒ當ルヘレ

我輩ハ茲ニ日本ノ事情ニ立戻リテ再々之ヲ論セントス夫レ外
人監督ノ利益ニ於ケル我々觀察ノ正確ナル其充分ノ証拠ヲ見
ントテ欲セハ只ニ大阪造幣寮沿革史ノ二三葉ヲ開觀スルノ勞
ニ過キスレテ足ラン

抑々大阪造幣寮ハ千八百七十一年ノ春ヲ以テ其業ニ著手セル
ナリ而シテ其鑄造貨幣ハ試験ノ為メニ英米ニ送ラレ大ニ善質
良品ニシテ嘉ニスヘキ貨幣タル旨ノ回報ヲ得タリ

其貨幣ヲ發行セル後子實際工ニ於テ緊要ト見做サレタル些少
ノ改正ヲ加ヘタルノ後テ第二番ニ發行セル貨幣ニ付キ英國造
幣本局ヨリ得タル回報ハ前キニ英米ヨリ得タル回答ヨリ尚ホ
一層ノ稱賛ヲ含メリ即チ其局長ハ日本貨幣ヲ緻密ニ分析シタ

ル上ニテ左ノ如ク品評セリ
日本新鑄貨幣ハ抽ンデ、満足ナリト
是日本國カ墨西哥ドルラニ加ヘタル第一ノ攻撃ナリキ
當時東洋銀行會社ハ地金及テ造幣器械及、其他造幣ニ屬スル
一切ノ具品ヲ供充スヘキ日本政府ノ代理者トシテ諸事ヲ取リ
扱ヒタルヲ以テ日本政府ハ最トモ努カアル羽翼ヲ保チタルナ
リ
造幣寮長及、其外國屬員ハ皆東洋銀行ヨリ其任ヲ蒙リ凡テ此
銀行ノ責ニ任スヘキモノタリシ一ハ世上一般ノ能ク知ル所ナ
リキ
斯レテ東洋銀行會社ハ支那及、日本ノ貿易社會ニ其保証ヲ与
ヘタルヲ以テ日本政府ノ發行セル貨幣ハ實際ニ於テ其表面ニ
極印セル名目通りニ通用セリ

千八百七十四年支那國新嘉坡廣東福州等ニ於テ日本國債ハ墨
西哥ドルラルト併立シテ合法貨幣ノ地位ヲ占メタリ
香港勸業局ハ後令日本政府ノ堅固ニ関シテ當時満足セサル所
アリ是ヲ以テ其移民地ニ日本國債ノ通用ヲ引導スルヲ躊躇セ
リト虫氏若シ當時日本政府カ猶ホ暫時ノ間其代理者トシテ東
洋銀行ノ使役ヲ継用シ銀行ノ手ニ於テ造幣寮長及、其屬員タ
ル外國人ノ黥陟権ヲ附托シ置カハ蓋レ日本國債ハ今日ニ至リ
テハ支那國ニ於テ確立シ墨西哥ドルラノ使用ハ俄然廢止ニ
及ヒタルヘシ
如何トアレハ支那ノ外國貿易ハ其銀行者ク貿易ノ媒介タル墨
西哥ドルラノ出入ヲ恣ニスルヨリ我輩カ輕笑スルモ一分五
厘ノ税金ヲ其銀行者ニ向テ拂ヒタリ
然レモ間然スヘカラサル外人ノ監督ヲ受ケ且責ニ任スヘキ外

國銀行ノ保証アル一造幣寮ヨリ品位及重量ニ於テ決シテ差違ナキ一新貨幣ノ発行アルアレハ日支兩國ノ高價ハ其銀行ニ制壓セラレ歩合ヲ出スノ苦域ヲ免ルヘケレハナリ
夫レ墨西哥ドルラレノ鑄造ハ多ク其間ニ品位量目ノ差等ナキ
一能ハス

何トナレハ之ヲ發行スル造幣寮ハ數多ニシテ皆互ニ獨立シ外人ノ監督外國ノ保証タル日本大阪造幣寮ク具有スルカ如キ利益ヲ有セサルヲ以テ各其產物墨西哥ドルラ異ニシ且其鑄造ノ基本タル地銀ハ所々ノ銀礦ヨリ掘出セルモノニシテ之ヲ鑄造スル器械モ亦タ精粗ノ差別アレハナリ

數多ノ墨西哥造幣寮ハ互ニ相競争スルヲ以テ自然墨西哥ドルラ墨西哥ドルラノ品位ヲ本位ノ下ニ落サスト雖モ其產物墨西哥ドルラノ間ニ多少ノ差等ナキ一能ハス是支那國銀行者ク墨西哥ドル

ラレノ間ニ價格ノ區別ヲ立ルモ敢テ故障スル一能ハサル至当ノ口實ヲ供スル所以ナリ

故ニ支那國寄留ノ外國人等ハ確然タル一源泉ヨリ流出スル本位貨幣ノアルアレハ為メニ墨西哥ドルラヲ放棄シ喜ンテ之ヲ取ルハ必然ナリ

此感覺ノ晚延勢カヲ得テ益々旺盛ナルハ支那國寄留ノ外國人ヨリ香港移民事務局及ヒ大英政府ハ英國鑄造ノドルラドルラヲ發行ヲ願訴スル一數回ニシテ已マス又暫時香港ニ設立セル英國造幣寮ノ利害ヲ試ミルニ充分ナル時期ノ間其經費ヲ拂フ一拒ミ遂ニ日本政府ニ賣リ渡スカ如キ過誤ヲ行ヒタルヲ悔ヒ公然其非ヲ懺悔スルニ至リタルヲ以テ明瞭ナリ

方今香港造幣寮ノ再設ヲ催促スル世上ノ感動、實ニ甚レキニ至レリ

故ニ日本政府ク直ニ支那貿易ノ用コヘキ貨幣ノ供給ヲ致ス
ヘキ旨意ヲ公告シ此感動ヲ過ムルニ干渉スルニ非レハ此感動
ハ遂ニ其機ヲ得テ再々香港ニ於テ英國造幣寮ノ設立アルヘシ
而シテ日本國ハ其内債ヲ以テ東洋ノ貿易ヲ恣ニスルノ機會ヲ
永久ニ失シ後テ其臍ヲ噬モ及フコトナケン
日本政府ク支那國貿易ニ於テ用エヘキ貨幣ヲ給備スルノ意ヲ
決セハ奉行セサルヲ得ナル数件アリ然レモ此ボノ如キ微小ノ
事項ニ付テハ敢テ詳細ノ議論ヲナスニ及ハサルヘシ
外國ク自國ニ於テ消費スヘキ物品ヲ支那國ヨリ輸入シ支那國
ニ於テ消費スヘキ物品ヲ同國ニ輸出シ尚ホ支那國ニ向テ拂フ
ヘキ殘額ノアルアレハ其差金タルヤ必ラス銀ヲ以テ支辨セサ
ルヲ付ス
方今ノ景況ニテハ其差金ハ全ク墨西哥ドルニ鑄造セル墨

西哥銀ヲ以テ拂フナリ而シノ此墨西哥ドルタルヤ墨西哥
政府ハ其造幣寮ニ賦課セル甚シキ重税ト墨西哥ヨリ此ドルヲ
ルラ倫敦ニ於ケル其得意先ニ運輸シ倫敦ヨリ又支那國ヘ之ヲ
送致スル運送債トノ故ヲ以テ過分ノ費ヲ負ヘル貨幣アリ
故ニ「カリフォルニア」或ハ「子ワダ」ノ銀礦ヨリ棒銀ヲ買入レ
日本造幣寮ニ於テ之ヲ貨幣ニ鑄造セシメ以テ之ヲ支那國ニ流
通スルハ墨西哥ドルヲ用エルヨリ政人ニ於テハ大利益アル
トタルハ明瞭ナレハ之ヲ証明スヘキ議論ヲ要セス又其比例
ノ表タモ示スニ及ハサルヘシ
斯ノ如クニ至ラハ支那貿易ハ安直ノ貨幣ヲ得テ其為換ハ直ク
ニ平均ノ相場ニ至ルヘシ
日本政府ク内債ヲ以テ支那貿易上ヨリ墨西哥ドルヲ驅逐
スルニ於テ特ニ其配電セサルハナラザル所ハ外國銀行及ヒ高

賈ノ應援ヲ得ルニアリ或ハ香港總理及ヒ英國移民事務局ニ照
會スルニ已ニ日本國ニ設立セル造幣寮ヲ以テ其使用ニ供セン
トヲ以テシ香港總理及ヒ英國移民事務局ノ官吏ヲシテ香港ノ
高賈等々自己ノ造幣寮ヲ建設セントヲ請フ憲スルニ決レテ粗
略等劑ノ所為ヲキトヲ表ハサシムルニ在ルナリ
而レテ我輩ノ見ル所ニ依レハ此事ヲ遂ルニ只一ノ方法アルノ
ミ而レテ其一方法ハ我輩已ニ之ヲ示セリ即チ造幣寮ノ外人監
督ヲ回復スルト是ナリ
造幣寮長ハ必ラスレモ英國人ニ限ラサルナリ然レモ蓋シ日本
政府ハ英國政府ニ其造幣本局中ヨリ一名ヲ拔擢シテ之ヲ送ル
カ或ハ其局ノ官吏ニ非ラスト雖モ技倆アリテ名望アル一人ヲ
送ラシトヲ請フヨリ善キハナカルヘシ而レテ惡事ト雖モ此ヨ
リ為シ易キハナシ

碩フニ日本ノ政事家或ハ倭辨諛筆ヲ以テ日本政府ニ嫖媚ヲ賣
ラシメスル卑屈者流ノ外國論者等ハ將マニ論スヘシ日本造幣
寮ハ之ヲ監督スルニ別ニ外國ノ寮長ナクトモ今日本各省ニ於
テ備使スルニ二三ノ英邁ナル外國ノ監督者ノ顧問ヲ以テ本國
委員ノ監^督ニテ充分能ク其事務ヲ掌クルヲ得テ敢テ日本内債
ノ本位ヲ墜ス^トナシ是レ既往三年間ノ經驗ニ由テ明ラカナリ
ト
我輩ハ日本造幣寮カ外國ノ監督ヲ受ケスレテ三年間滿足スヘ
キ景況ヲ以テ其事務ヲ行ヒタルヲ許ス然レモ後來尙ホ斯ノ如
クナルヘシトノ推測ハ決シテ許ス能ハサル所ナリ
我輩ノ論スル所ハ日本政府カ其内債ヲ以テ支那國貿易上ヨリ
墨西哥^{ドル}ヲ驅逐セ^ントヲ試ミハ外國政府列之ハ香港移
民政府ノ如キハ何事ヲ要求スルヤ又外國高賈ハ何件ヲ要求ス

ルヤニ在ルナリ日本造幣寮カ業ニ行ヒタル事務ヲ論スルニ
非ルナリ
外國ノ高買ハ尽リ頑固不変ニシテ万事ニ於テ過失多キモノト
セヨ
彼等ハ必ラス日本造幣寮カ時々発行スル試験表ヲ以テ満足ス
ヘレ政米造幣寮ノ分析報告書ヲ以テ満足スヘレ外國銀行カ時
々輸出スル貨幣ニ付テ行フ公平無私ノ試験ク証スル所ヲ以テ
満足スベシ日本國ハ墨西哥國カ其國益ヲ顧ミ其「ドル」ルノ本
位ヲ低落セス其給備ヲ怠ラサル如ク亦々其國益ヲ思ヒ其田賃
ノ本位ヲ低落セス又其給備ヲ怠ラサルヘシトノ信用ヲ以テ満
足スベシ
然レニ以テ上ノ數項ハ能ク外國高買ヲ満足スルニ足ラスト仮想
セヨ又我輩ノ知ル所ニ依レ、彼等ハ決レテ此數項ヲ以テ満足

セサルヲ如何ンセンヤ日本ノ改竊家輩ハ造幣ノ事務ヲ以テ外
人ニ高托スルハ日本國民ノ耻辱トナシ小節ニ區々トシテ目前
ノ大利ヲ顧ミサルカ如キ愚人ナランヤ
且夫レ日本改竊家輩カ二三年間實直ヲ以テ事ヲ處レ實直ハ家
良ノ政略タルヲ穩知シ妄リニ詐偽ヲ行フテ策ノ得タルモノ
ト思惟スルノ惡弊ヲ絶タハ今日外國人カ要求スル如キ保証ハ
最早不用ニ屬シ之ヲ放棄スルノ日ハ屈指シテ待ツヘシ
然レモ今日ニ於テ日本政カ其目的タル墨西哥「ドル」ル追討ノ
事ヲ遂ント欲セハ宜レク其保証ヲ呈供セサルヲ得ス
蓋シ外國人カ日本政府ニ向テ要求スヘキ保証中ノ最モ肝要ナ
ルモノハ日本政府ニ於テ一回取極メタル約定ハ妄リニ違變ス
ルヲナリ確定セル相当ノ年月間必ス履行スヘキ保証ヲ立テ
シムルヲ是レナリ

日本政府カ前キニ墨西哥「ドル」ヲ追討セシトテ試ミ其第一
着ヲ過ラタルハ即チ其輕慥變化ヲ好ムノ陋習ヲ由レリ故ニ我
輩ハ再ヒ日本政府ヲシテ斯ノ如キ輕慥ノ變化ヲ為サシメサル
ヘキ預備ヲ為サハルベカラス

何トナレハ日本政府カ愈々其内債ヲ以テ支那國貿易ヨリ墨西
哥「ドル」ヲ驅逐スルトテ得ハ其功驗ノ一タルヤ必ラスシモ
我輩ヲシテ我輩カ今世上ニ通用スルヲ見ント希望スル日本内
債ニ特ニ量目ニ於テ讓ル所アル一貿易ノ媒介(墨西哥「トル」
ヲ失ハレム而シテ志操ノ不堅固ナルト慥變ヲ歎慕トハ日本國
人固有ノ陋習ナレハ後來ニ於テ金銀兩債ノ制ヲ立テ或ハ非常
ナル量目ノ銀「ドル」ヲ鑄造シ我輩西國人ヲシテ不測ノ不幸
ニ陥ラシムルモ計ラレサレハナリ

故ニ我輩ハ日本國人固有ノ陋習タル輕慥變化ヲ好ムノ性質ノ

為メニ犧牲トナサレントテ要求スヘキ権理アリト云フモ豈夫
レ不可ナランヤ

此危険ヲ防禦センニハ日本政府ヲシテ少トモ十年間外國ノ
造幣役員ヲ僱ヒテ之ニ悉皆造幣ノ事務ヲ擔任セシメサルヘカ
ラス

我輩ノ希望スル所ノ沿革タル墨西哥「ドル」及ヒ其他各種ノ
「ドル」ニ換ユルニ日本内債ヲ以テシ日本内債ヲシテ獨リ東
洋ノ貿易ノ媒介タル職務ヲ行ハシメントスルニ當テ各外國銀
行ノ同意及ヒ其應援ヲ得ンニ日本政府ハ之ニ向テ特別ノ説得
的ヲ用ヒサルヘカラサルヤ何如ノ一項ヲ下節ニ論定スヘシ
我輩ハ此項ニ付チ千思万考ヲ費ヤスノ後テ日本政府カ外國銀
行ノ應援ヲ藉ルニハ別ニ如何シノ説得ヲモ用トルニ及ハサル
ヘシト推究マリ

前キニ日本円貨カ東洋銀行ノ保証ヲ肩頭ニ被テ始メテ支那國ニ顯出スルヤ其銀行ノ保証ハ日本円貨ノ大ナル補助ニシテ直ニ之ヲシテ同國ニ於テ其立脚ノ所ヲ得セシメリ然レモ今日日本政府カ此強勢ナル銀行ノ通常ノ補助應援ヲ藉ル而已ナラスシテ譬ヘハ其會社ヲ以テ地金ノ輸入及ヒ造幣具品ノ給備專任者ト為レ或ハ外國造幣官吏ノ選任者ヲラシメハ此銀行ノ競争者ハ必ラス日本円貨ニ抵抗スルノ嫉念ヲ生セシ何トナレハ日本政府カ東洋銀行ト斯ノ如キ契約ヲナス時ハ東洋銀行ハ日本造幣寮ニ於テ生スル逐一ノ事情ヲ迅速ニ悉知シ為メニ支那國為換ノ全權ヲ獨リ恣ニスルノ患アレハナリ我輩ハ此貴重ナル銀行ヲ專フト強モ同社ヲシテ斯クノ如キ權柄ヲ得セシムルニ至ルヘキ所業ハ決シテ翼賛スルヲ能ハサルナリ

論者曰ク外國諸銀行ヨリ各々委員一名ヲ會集シ之ヲシテ日本円貨ノ保証者ヲラシメ且日本造幣寮ニ於テ使用スル外國造幣後員ノ責任者ヲラシムルハ希望スル所ノ場合ヲ完全スヘシト然レモ我輩ハ斯ノ如キ會集ノ行ハルヘキヲ望ムヘキ理由ヲ見ザルナリ我輩カ前キニ薦贊セル如ク英國政府カ日本ノ為メニ其造幣寮長ヲ選任シハ願フニ大改造幣寮ヨリ發スル分析表及ヒ英米ノ造幣寮長ヨリ半期毎ニ發行スル報告書ノミニテ香港勸商局ハ必ラス満足スヘシ故ニ日本大藏卿ハ「サア、ハアリ、パァリス」氏及ヒ「ミストル」プ「ロープ」ヘン子「レ」氏ト高議ヲ開キ同氏ボヲシテ何等及的迅速ニ本國政府ヘ右ノ事情ヲ照會ナシム可シ

實ニ支那國廣東及福州ニ於テハ日本貨幣ハ已ニ合法貨幣ナ
リ
然レモ今香港ニ於ケル英國ノ高社ヨリ日本國貨ノ使用ヲ承諾
シタル旨ノ報告ヲ發スルト同時ニ支那政府ヨリ外國貿易ノ為
メニ開キタル回國諸港ニ於テ日本國貨ヲ墨西哥「ドル」ルト全
一ニ使用スヘキ旨ノ布告ヲ發行スルアラハ支那國ニ於テ日本
國貨ハ其陳管ヲ堅固ニスルモノト云フヘシ
我輩ハ已ニ日本國貨ニ係ハル此議ヲ長論シタルヲ以テ左マテ
貴重ナラサル左ノ數項ノ如キハ他日ヲ待テ論スヘシ
又那及ニ日本貿易ニ用ユルニ不足ナキ充分ノ貨幣ヲ鑄出ス
ヘキ保証ヲ立ツヘキ事是日本政府ノ目前ニ横ハル事業中ノ
最モ困難ノ部分タリ
人民ヨリ取り立ツ可キ鑄造料ノ額

補助貨幣並ニ其利益本位ノ事

造幣寮証券通用ノ事

墨西哥「ドル」ラノ驅逐ニ由起スル直接間接ノ利益ノ事
今我輩ハ墨西哥「ドル」ラニ追討ノ旗竿ヲ為セリ然レモ此追討ノ
舉ハ勞タクシテ其功期スヘカラス故ニ我輩カ之ヲ擔当スルニ
先キダツテ之ニ應スルモノアルノ確証ヲ認メテ後々之レヲ行
フヘシ



